





令和8年度農業試験場で実施している研究等一覧

【栽培部】

研究テーマ（実施年度）		研究概要
競争力アップ技術開発 ①夏季高温に対応したイチゴ‘まりひめ’の花芽分化遅延防止技術の確立 (R7～9 継続)		育苗期と定植後のステージに応じた低コスト高温対策技術と適正な栄養管理手法を確立する。 ・温度条件、株の栄養状態と花芽分化の関係解明 ・低コスト高温対策技術の確立 ・高温条件下における栄養管理方法の確立
競争力アップ技術開発 ②スプレーギク県オリジナル新品種‘紀州サマーリンド’の高品質安定生産技術の開発 (R8～10 新規)		夏秋系スプレーギク新品種‘紀州サマーリンド’に適した草勢管理技術と開花期を延長する栽培技術を確立する。 ・効果的な草姿改善技術の確立 ・作型延長技術の確立
基礎研究 ③安定生産が可能な高収益品種育成のための野菜・花き育種素材の作出 (R8～12 新規)		イチゴ‘まりひめ’に替わる収益性が高い品種や種子繁殖性品種育種のための自殖系統を作出する。 スプレーギクでは、‘紀州サマーリンド’と同程度の品質をもつ黄・白系統や耐暑性などの品種・系統を育成する。
④水稲奨励品種決定調査 (R6～8 継続)		高温登熟性に優れる高品質・良食味品種を選定する。 ・県奨励品種決定のための特性調査 ・新奨励品種の栽培試験 ・原原種、原種の維持更新
競争的資金事業 ⑤初冬から早春まで「いつでも直播」:春の作業ピークを平準化できる革新的稲策技術 (R6～10 継続)		温暖地域での作型を開発する。 ・11月～5月 播種時期の確立 ・施肥管理、除草体系等栽培管理技術の検証

【環境部】

研究テーマ（実施年度）		研究概要
競争力アップ技術開発 ⑥低コストかつ持続可能なショウガ施肥体系の確立 (R6～8 継続)		プラスチックを使用しない緩効性肥料と有機質資材を配合した、安価で価格変動の少ない肥料による施肥体系を確立する。 ・養分吸収特性に適合する配合肥料の開発 ・新肥料を用いた施肥体系の確立と実証
消費・安全対策交付金 ⑦特産農作物病害虫防除 (R8 継続)		本県の基幹農作物の安定生産と安全性を確保するために必要な病害虫防除技術を開発する。 ・薬剤抵抗性病害虫の発生状況調査の手法確立 ・農薬に頼れない難防除病害虫の管理手法の確立
農作物病害虫防除所:植物防疫事業交付金 ⑧病害虫発生予察・発生状況調査 (R6～8 継続)		病害虫発生予察情報を提供するとともに、早急防除が必要な場合は警報・注意報を、新規病害虫発生の場合は特殊報を発表する。 ・病害虫の発生動向調査 ・病害虫の診断同定
農林水産省委託事業 ⑨農地土壌炭素貯留等基礎調査事業 (R5～8 継続)		農地土壌をCO ₂ の吸収源として利用することにより、温室効果ガス削減を図る。 ・県内農耕地の炭素貯留量調査 ・有機物連用による土壌炭素貯留効果
農林水産省委託事業 ⑩国内資源の肥料利用拡大に向けた調査(地力調査) (R6～9 継続)		土壌の性質に応じた、肥料の利用ポテンシャルを明らかにする。 ・県内農耕地の地力調査
競争的資金事業 ⑪データに基づくスマート害虫管理を目指した害虫自動モニタリング技術の開発 (R7～9 継続)		害虫発生調査のデータの収集・記録を自動化する技術を確立する。 ・新規害虫モニタリング装置の誘殺性能・実用性評価